

On the nochi Books 遊びの社会学

二二！
ジネーション研究

副田義也

欠落と豊饒の世代

——井上陽水「傘がない」に着せて

傘がない

都会では自殺する者が増えている
今朝きた新聞の片隅に書いていた
だけども問題は今日の雨 傘がない

行かなくちゃ 君に逢いに行かなくちゃ
君の町に行かなくちゃ 雨にぬれ
つめたい雨が今日は心に浸みる
君の事以外は考えられなくなる
それはいい事だろ？

テレビでは我が国の将来の問題を
誰かが深刻な顔をしてしゃべってる
だけども問題は今日の雨 傘がない

行かなくちゃ 君に逢いに行かなくちゃ
君の家に行かなくちゃ 雨にぬれ

つめたい雨が僕の目の中に降る
君の事以外は何も見えなくなる
それはいい事だろ？

この作品の全体をみると、そこには、かなり見えやすいからちでの、社会生活と私的生活の対立の図式がみいだされる。

社会生活は各節の冒頭の一聯に示される。それは、都会における若者たちの自殺の増加であり、新聞が伝えたものである。あるいは、我国の将来の問題であり、テレビで深刻な顔の人びとによって語られるものである。これにたいする私的生活は、恋ひとの存在であり、彼女に逢いにゆきたい気持であり、雨が降っているのに傘がないという状態である。社会生活と私的生活はまことに對立して対置され、作品のなかの主人公は私的生活について関心をよせているとみえる。この図式をどうかみがえるか。

「傘がない」のなかで、社会生活と私的生活とはコピイとリアリティとして対置されている。すなわち、社会生活は、新聞やテレビが伝えるコピイであり、人びとはそれを間接的にしか体験することができない。直接的に体験しうるリアリティは、私的生活である。社会生活のコピイをとおして、そのリアリティをみるためには、一定の訓練が必要である。その訓練は青春期にはじまるものであり、終つているものではない。かれが私的生活にもっぱら心を奪われていても、それは咎められるべきものではない。

わが主人公は「問題は今日の雨」という。昨日でも明日でもない。時間は今日に、現在に収束している。これにたいして、空間は、現在かれがいる場所とがある世界。紳士たちは、今日の鬱憤と破壊のみに関心をかたむけ、昨日までの歴史も、明日かく、空間のみがあつた。空間のみがあつた。

本題にもじって、しめくくりたい。

「傘がない」のなかの私的生活への関心はどのうな性質のものか。それは、雨が降り傘がない条件のもとで、恋ひとのもとにいかなくては、とねらつてゐる状況である。この状況の意味について、私にもつとも劇的であつたのは、若い同僚や大学院の女子学生の発言であつた。かれらはいう。熱烈な恋愛をしているなれば、雨が降らうが、傘がなからうが、恋ひこの許にささと出かけてゆくなずではないか。

教育

水曜 特報

木曜 特報

金曜 大学

土曜 子育

「部屋でゲームピコピコ ■ 混む電車で出勤」

歌詞「ふるさと風景は」と

ふるさと 作詞 西島准
作曲 関野義之

- (1) 小さな遊び場
わすれがたきめぐりて
かのかの川山
- (2) 思いがなじや
父母親に願ひます
つづつがなじや
- (3) いつの日は青き
水は清き
ふるさと

麻布高校の生徒が作った
「ふるさと」のつづき

- A ① 身も心も
どこに行つたままで
ふるさと
- B ② 部屋でゲーム
掲示板で会話
自立できぬふるさと
- C ③ メールします
つながり合ふるさと
ふるさと

- D ④ 混む電車で
運転士に残業出勤
先の見えぬふるさと

The Asahi Shinbun	
■ 今的小学校学習指導要領で	
【1年】「うみ」「かたつむり」「日のまる」	【2年】「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」
【3年】「茶まみみ」「春の小川」「ふじ山」	【4年】「もみじ」「スキーの歌」「冬げしき」「わかれ海の子」
【5年】「こいのぼり」「おぼろ月夜」	【6年】

作詞して考える今の日本

文部省唱歌「ふるさと」の歌詞の続きをつづこう。そんな授業を、首都大学東京の西島准教授（教育社会学）が試みている。21世紀の日本のイメージを探るのが狙いだが、子どもたちが描くのは、ビルが林立してネットにつながり合う図。歌の原風景は遠い。

西島准教授は、音楽による社会的なつながりを研究。明治期から教科書に載っていた文部省唱歌が、子どもたちに共通の日本像を育んでいたことに注目してきた。 「ふるさと」は「春の小川」や「虫のこえ」など季節を歌った唱歌と異なり、歌詞から読み取れる日本の風景を挙げる。穢れて、他の唱歌の詞を「季節」「儀式」「遺徳」「日常生活」などに分類していく。さらに、山口百恵の「秋桜」、森山直太朗の

「さくら」といった現代の歌が、今の日本をどう表現しているかを確認。それを踏まえ、数人のグループで歌詞つづりに取り組む。

これまでの作品では、図

のA、Bのように、自然が失われ、地縁や血縁も薄らぎ、立身出世から遠ざかっ

た世界を描くものが多い。先月末に取り組んだ麻布高校の生徒からは「みんなに共通のふるさとは、もうないのではないか」「だからこそ

一人ひとりの違う歌があつていい」などの声が出た。

「ふるさと」は、東日本大震災後、被災地の岩手県大船渡市立大船渡中学校の生徒たちが卒業の際、避難住民の前で歌った場面がテレビで紹介された。ギタリストがCDを出し、被災地の女性が登場する化粧品のコマーシャルで熊本杏里の歌声が流れるなど注目を集めている。

西島准教授は「歌があれば、人は故郷を奪われた被災地に思いをはせることもできる。だが、一つの情景を歌うことで、時代や地域の違いが見えてくる側面もある。いまの『ふるさと』の詞をつくることで、そこを考えてほしい」と話している。

作品募集交流計画

西島准教授は、小中高校生、大学生による新しい「ふるさと」の歌詞を募っている。作品をソイツタ(@furusatonippon)で公開し、交流したいたい。応募は①住んでいる市名②学校名③学年④氏名⑤メールアドレスまたは電話番号⑥新しい歌詞を明記し、郵便にて1922市南大沢1の1、首都大学東京・都市教養学部人文・社会系西島研究室か、メール(furusatonippon@gmail.com)で。

（編集委員：浜真弓）

◆◆記事や「いま子どもたちは」へのご感想、教育に関するご投稿を募集します。editt@asahi.comまでおねがいします。

私たちは国土と民を失った



上 原発を20°南にのぞむ南祖鳥
の海
下 過去からの風がふいているか
のような水俣の海
=いずれも藤原新也氏撮影

藤原 新也

作家

ふじわら・しんや 1944年福岡県門司市(現・北九州市)生まれ。作家、写真家。著書に『東京漂流』『死ぬな生きろ』など多数。近著に作家石牟礼道子さんとの対談集『なみだふるはな』。

「3・11」から後、あらためて水俣病が注目されている。

企業のすさまじい安全管理による破綻と有害物質の放出。生物濃縮。危機にさらされる国民の生活と命。政府……。東京電力福島第一原発とチツソ水俣工場による環境汚染と、それに伴う企業や政府の対応が、双生児のように酷似しているか

水俣病、そして原発事故

「3・11」と事務処理的発言をした。「苦海浮士」の作家石牟礼道子さんが「それはあんまりじやありませんか」と問うと、会社は「これは文学的問題ではない」と切り捨てた。加害者側が居直り反攻姿勢に転じると、いう構図も先の電力会社の株主総会で同じ様相を見せた。

かくも相似した二つの忌まわしい歴史が繰り返されているわけだが、水俣と福島はすべてが軌一であるといふわけではない。

水俣の水銀汚染は被害が長期にわたりかつ深刻だが、海洋に限定され

たその性質上、被害の拡散範囲に地域性があるのに対し、福島の場合には、 Chernobyl 原発事故によつて三重のお茶から多量のセシウムが検出されたことが示すように、福島を最大被害地として日本のみならず全世界に広がる。海底に沈没した水銀は、浚渫と埋め立てで封印されたが、陸、海、空に拡散した放射性物質の封印は不可能だ。

もうひとつ私たちが十分に銘記していない決定的な違いがある。それは水俣では土地や家、家族は残つたが、福島では我々は「国土を失った」といふことだ。そしてその国土に住む国民からの土地や家を奪

らだ。水俣病発覚後の住民とチツソとの折衝では会社側は居直り、これは「心情は介さない」交渉などです（心情は介さない）交渉などです。

（心情は介さない）交渉などです。

らだ。

水俣病発覚後の住民とチツソとの折衝では会社側は居直り、これは「心情は介さない」交渉などです（心情は介さない）交渉などです。

（心情は介さない）交渉などです。

政治生命かけるべきものは

福島では多くの悲惨を見てきた。しかし私が一番ショックを受けたのは、千葉・房総の自宅付近のドライブインで昼食をとっている時、皿の前でテープルに一週間飲まず食わず（比喩でなく事実として）で逃げ回り、憔悴しきった福島県浪江町から避難民家族がおられたことだ。私はその家族の悲劇を目の当たりにした時、この国は有史以来初めて、自ら「國土を失い、『國を失った』」の

だなど痛感した。

石原都知事が守りたいとしている尖閣諸島・魚釣島の面積は、8平方キロ。福島の原発事故で失った國土は飯館村だけでも230平方キロ。総計はゆうに尖閣諸島の百倍にも及ぶだ

ろう。

こんな第一級の緊急時に、ドジミウの誠実を騙った野田さん、あなたは消費増税法案成立に政治生命をかけると言つた。大飯原発の再稼働にも政治生命をかけていたらしい。

しかし、いま一国の長が政治生命をかけるべきことは明白だ。この広大な國土の喪失に対しどう対処するかであり、日本を壊滅に導くかも知れない福島第一原発4号機の倒壊阻止、そして路頭に迷い國民をどう救済するかである。